

中一国語

文節相互ごの関係 第二回

修飾語しよく―被修飾語ひの関係

講師・・羽場雅希

◆今日の授業で学ぶこと

- ・文節(復習)
- ・修飾(語)―被修飾(語)の関係
- ・連体修飾語

◆ 文節(復習)

意味の上で不自然にならないように、文をで
きるだけ短く区切ったまとまり。

◆ 修飾(語)―被修飾(語)の関係

二つの文節の一方が修飾語、もう一方が被修
飾語になっている関係。

修飾語：文の中で「どのくらい、何を、何に、
いつ、どこで、どこから、どこに、
どんな、何の」などにあたる文節。
他の文節を説明(＝修飾)する。

被修飾語：修飾される文節。

※修飾することを「かかる」と言うことがある。
る。

◆ 連体修飾語・連用修飾語

連体修飾語：体言（名詞）を含む文節（ふく）を修飾する修飾語。

（例）

放課後の音楽室で

課題の合唱曲を

※名詞（しやうご） || 物事の名称を表す単語。主語になることができる。

連用修飾語：用言（動詞・形容詞・形容動詞）を含む文節を修飾する修飾語。

（例）

合唱曲を練習した

必死に練習した

【第一問】

次の(1)～(5)の文の傍線部の修飾語・被修飾語の関係としてふさわしいものを、後の①～⑤から選び、記号で答えなさい。

- (1) ネコを大切に育てる。
- (2) 教室でいじめについて話し合う。
- (3) たいそう花子さんは可愛らしい。
- (4) さわやかな、過ぎしやすい季節だ。
- (5) 春の遠足で八ヶ岳やっがたけにみんなで登る。

- ① どのくらい — どんなだ
- ② どこから・どこに — どうする
- ③ 何を・何に — どうする
- ④ いつ・どこで — どうする
- ⑤ どんな・なんの — 何だ

(4)	(1)
⑤	③
(5)	(2)
②	④
	(3)
	①

【第二問】

次の文の主語には 〳〳、述語には 〵〵が引いてある。例にならって、

- ① 文節に区切りなさい。
- ② 修飾語に――を引き、修飾している文節に向かって矢印を書き込みなさい。

※問題作成の意図により、文中の読点（、）を省いています。

（例）

先生は日曜日に多摩川で二十四匹のテナガエビを釣った。

(1) 山田さんは先月新宿の病院で健康診断
を受けた。

(2) 山田さんは体脂肪しぼうを落とすために毎日
一キロ歩くそうだ。

※補足：「歩くそうだ」で一文節。

(3) 常に努力する山田さんはとても素敵だ。

※補足：「常に」で一文節。